

学び合い、笑顔あふれる学校に
— 一人一人のよさを認め、自尊感情を高める教育の創造 —

学力向上推進員 委員 教務主任:小川雅功
田淵 由起子 学力部員:椎野由美子 板東郁代 竹内博美 岡田幸江 宮本祐佑
野々瀬照代

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	基礎的・基本的な知識・技能を身に付けようとする意欲が少しずつ育ってきた。また、それぞれの課題解決に向けて前向きに取り組んでいる。学習規律の定着も進みつつある。	①基礎的・基本的な事項に関する定着確認テストで、平均正答率を80%以上にする。 ②児童アンケートで「国語・算数の授業の内容はよく分かる」と回答する割合を85%以上にする。			
課 題	授業の内容がよく分かると捉えている児童は全体の85%いるが、基礎的・基本的な知識の確実な習得には至っていない。特に、継続して学習することが難しい。	①朝の活動(漢字や言葉、計算等のドリル学習や読書等)の充実を図る。 ②TTの指導方法を工夫し、児童の学力に合った個別指導を行ったり、関心・意欲の高まる教材・教具を工夫する。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
	①朝の活動(漢字や言葉、計算等のドリル学習や読書等)の充実を図る。 ②TTの指導方法を工夫し、児童の学力に合った個別指導を行ったり、関心・意欲の高まる教材・教具を工夫する。	①学年毎に朝の活動計画を作成し、学期に1回見直す。 ②TTの指導方法に関して、単元毎に学年で情報交換を行い、必要に応じて見直す。			

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	予め、自分の考えを文章にまとめたり、ペアやグループで話し合ったりしておく、物事を筋道立てて考えられる。	児童アンケートで「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意」と回答する割合を50%以上にする。			
課 題	他者の考えを基に自らの考えを述べたり、自分の思いを他者に伝えたりすることが難しい。	①他者の言葉に耳を傾けることができる環境作りを努め、思いを伝えやすい雰囲気を作る。 ②発表ナビやワークシートを効果的に用いて、考えを高めたり深めたりする学習を展開する。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
	①他者の言葉に耳を傾けることができる環境作りを努め、思いを伝えやすい雰囲気を作る。 ②発表ナビやワークシートを効果的に用いて、考えを高めたり深めたりする学習を展開する。	○友達の意見に反応するシステムを学習の中に取り入れる。 ○書くことで、自らの考えを確かなものにさせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	授業におけるノート指導や自主学習ノートの公開等によって、主体的に学習に取り組もうとする児童が増えつつある。	児童アンケートで「国語・算数の勉強が好き」、「家で、自分で勉強をしている」、「自分には、よいところがあると思う」と回答する児童をそれぞれ85%以上にする。			
課 題	児童アンケートで「家で、自分で勉強をしている」と回答した児童が79%と、主体的に家庭学習に取り組む姿があまり見られない。	①振り返りの段階で学習の成果や自身の変容を自覚させられる学習計画を立てる。 ②「家庭学習の手引き」を活用し、家庭と連携しながら、児童の家庭学習の定着を図る。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
	①振り返りの段階で学習の成果や自身の変容を自覚させられる学習計画を立てる。 ②「家庭学習の手引き」を活用し、家庭と連携しながら、児童の家庭学習の定着を図る。	適宜ノートを回収し、単元毎の振り返り等に対してはコメントする等して、児童の伸びや変容を伝えるようにする。			

平成30年度 学力向上ロードマップ

